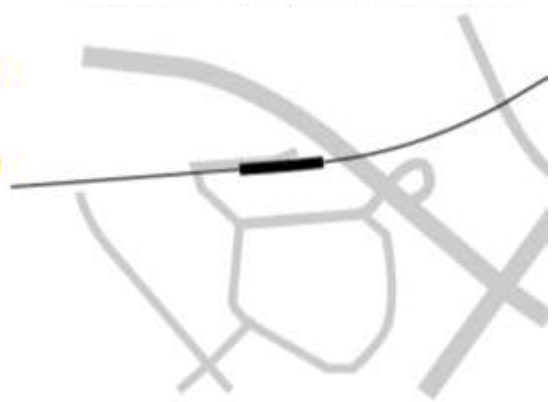


Lab 未来創造 in 南町田

～Lab 活動記録（報告書）～



はじめに

『Lab・未来創造 in 南町田』は、南町田駅周辺を舞台に、まちづくりの事例や考え方について学ぶ公開研究会です。

（“Lab”とは“Laboratory＝研究室”の略です）

町田市では、南町田駅周辺について、市南部の魅力的な中心核となることを目指して、にぎわいと交流の拠点づくりに取り組んでいます。

2015年8月から11月まで約3ヶ月間にわたり、南町田駅周辺にお住まいの方々をはじめ、南町田というまちに関心をお持ちの36名のメンバーとともに、まちづくりの手法を知り、また自分に出来ることを考えるための活動を行いました。

本報告書は、その活動記録と、最終回ワークショップでメンバーからグループごとに提案いただいた内容をまとめたものです。

2015年12月 町田市

◇目 次◇

1. 「Lab・未来創造 in 南町田」の概要 3
2. 各レクチャー（第1回～第4回）の内容 4
3. 最終回（第5回）における成果発表ワークショップ
. 12

1. 「L a b ・未来創造 i n南町田」の概要

「L a b ・未来創造 i n南町田」では、2015年8月22日から11月15日までの約3ヶ月間にわたり全5回、さまざまなジャンルの専門をお持ちの講師やファシリテーターをお招きし、レクチャーやワークショップを実施しました。

研究会の進め方としては、第1回から第4回までは多分野の講師からのレクチャーを実施し、最終回の第5回では、第1回から第4回までのレクチャーをもとに、「南町田を舞台に『あなたが』取り組むオリジナルプロジェクトを考えよう」というテーマで「L a b ・未来創造 i n南町田」の成果発表ワークショップを実施しました。

| | 日時・場所 | 講師/ ファシリテーター | テーマ | 視点 |
|-----|--|---|--|--|
| 第1回 | 8月22日(土) 14:00~16:00 リバブルスクエア 南町田 | パーム・インターナ ショナル・テニス・ アカデミー校長 杉山 芙沙子 氏 | 「拠点を活用する マネジメント ～連想で見出す 公共サービス～」 | 南町田を “ <u>自分と重ね て</u> ”考える |
| 第2回 | 9月19日(土) 14:00~16:00 リバブルスクエア 南町田 | 演出家 花井 裕一郎 氏 | 「市民が集う場所 ってどんなところ？ ～みんなで創る 公共空間～」 | 南町田で “ <u>自分が出来る こと</u> ”を考 える |
| 第3回 | 10月18日(日) 14:00~16:00 鶴間小学校体育館 | 空想地図作家 今和泉 隆行 氏 | 「多様な人々の日常 を創造する ～南町田を立体的に 見る～」 | 南町田を “ <u>地図で比較 する</u> ” |
| 第4回 | 11月8日(日) 14:00~16:00 鶴間小学校体育館 | 三井住友トラスト 基礎研究所 副主任研究員 田中 可久 氏 | 「何をするにもお金 がいる！ ～官民連携における ファイナンス とは～」 | 南町田の “ <u>官民連携</u> ” を考える |
| 第5回 | 11月15日(日) 14:00~16:30 鶴間小学校体育館 | NPO法人 Collable 代表 山田 小百合 氏 | 「南町田を舞台に 『あなたが』取り組 むオリジナルプロジ ェクトを考えよう」 | 南町田で “ <u>「あなた」が できるプロジ ェクト</u> ”を考 える |

2. 各レクチャー（第1回～第4回）の内容

■第1回 杉山 芙沙子 氏

「拠点を活用するマネジメント～連想で見出す公共サービス～」

<講師プロフィール>

パーム・インターナショナル・テニス・アカデミー校長。一般社団法人次世代 SMILE 協会理事代表等を担っている、元プロテニスプレイヤー杉山愛氏の母。トップアスリートのコーチングや関わりから得られた「その人の持つ力を最大限に引き出す」人材育成に取り組んでおり、そのご経験を活かされた PFI 事業の実績を持っている。



杉山氏からは、元プロテニスプレイヤーの杉山愛選手や、現在ご活躍中の錦織圭選手のコーチ・トレーナー・ディレクターの役割をされてきたご経験から、「自分を
知ること」「理想像を考えること」が重要であり、そしてその考えをまちづくりに発展させるお話をしていただきました。



アスリートの指導という、ご自身の活動基盤に伴う身体と心の健康についての研究、そしてコミュニケーション能力醸成という哲学を持って、どのようにアスリートを育ててきたかご紹介いただいた後、その哲学を活かしたまちづくりの考え方をご提示いただき、幅広くレクチャーしていただきました。

レクチャーのポイント

自分の強みや弱みを見つめ、
過去と未来を考えて、未来の南町田のまちについて考える！

「南町田の強みと弱みとは？」

杉山氏が考える「自分を知るためのプロセス」から発想を転換し、「まち」を自分に例え、南町田について「強みや弱み」について考える時間を持ちました。5～6人の5つのグループに分かれ、以下のような意見交換を行い、メンバーの中から、“強みと弱みは表裏一体である”とのご意見も飛び出しました。



南町田の強み

- アクセスの良さ：交通網が発達しており、都心部や郊外へのアクセスも良い。
- 暮らしやすさ：若い人が多く、子育て世代が安心して暮らせる。住民のネットワークが強い。住宅地から駅までの距離が比較的近い。駅前エリアは、車と人が分離していて、安全面が良い。
- 自然、みどり：鶴間公園、境川など、自然豊かな環境が良い。駅近くに手つかずの自然が残っている大きな公園があり、今後どのように守り、活かしていくかが鍵である。
- 便利なまち、にぎわい：駅近くにショッピングモールがあり便利。大道芸や地場産の野菜が購入できるのが良い。

南町田の弱み

- まちのイメージ：南町田の知名度が低い。たまプラーザと似ており、独自性に欠ける。駅北側が寂しい。地域で成長している企業が少ない。
- 安全と安心：車と人が完全に分離されておらず、安全面が弱い。騒音も多い。照明が少ないため防犯機能が不安。雨水が溜まりやすく、雨水対策が弱い。駅のバリアフリー化が進んでいない。
- 交通不便：通勤時の電車の混雑がひどい。交通渋滞が良く起こる。歩道が狭い。南町田駅北口と南口の連絡が悪い。
- 日常の利便性：大型ショッピングモールが老朽化している。公共施設が不足している。
- みどり、その他：鶴間公園が有効活用されていない。自治体を超えた交流が少ない。

■第2回 花井 裕一郎 氏

「市民が集う場所ってどんなところ？～みんなで創る公共空間～」

講師プロフィール

演出家。幾つかのテレビ局にて番組演出を行ない、その経験を活かし長野県小布施町立図書館「まちとしょテラソ」館長に就任。「死ぬまでに行ってみたい世界の図書館 15 選」に選ばれた図書館の演出を行った経験を有する。公共空間の変化に対応するための視点や「おもてなし」の利用者目線での社会資本整備等について、講演・WSを実施。「見えないのにある」みんなの素敵な力を引き出し、そこに潜む物語を可視化するという演出を行っている。



演出家である花井氏からは、「公共施設はこうあるべき」という既成概念を取っ払い、発想の転換を起こすことで、多様で魅力的な物語・空間の創造へつながるということについて、レクチャーしていただきました。

公共空間づくりの実践としては、花井氏が実際に携わったご経験のある以下の3つの事例を中心に、どのように住民と一緒に魅力的な公共空間を創っていくのかをお話していただきました。



- ◇ 長野県小布施町における町民主体のまちづくりの取組や、自身が館長として携わった同町の町立図書館「まちとしょテラソ」での取組
- ◇ 本を介して人が集まる場所を創った「まちじゅう図書館」の取組
- ◇ 直近で取り組んでいる福岡県福智町の町立図書館の取組

レクチャーのポイント

「競争力」から「共創力」へ、「協調性」から「多様性」へ

花井氏は、「人が集まる場所」というのは、第一に「居心地の良い場所」、第二に「あいまいな場所」、第三に「デザインコードを考えた場所」であると考えています。そのような場所の創出において、「テーマパークを作ること」ではなく、「コミュニティを作ること」が最優先であり、地域に合った歴史・アイデンティティを積み重ね、地域住民に馴染む快適なまちを目指すことの重要性を教えてくださいました。

「まちに対して、自分が出来ること」

“自分のまちを良くするために、自分が今から出来ること”について、メンバーが3~4名の10グループに分かれ、話し合いました。自分が望むまちにしていくために「自分から取り組めること」まで考えを掘り下げること、主体的にまちに関わっていくことに重きを置いてワークを行い、たくさんのアイデアが生まれました。

まちの魅力を共有・発信する

- Labのような会に率先して参加する。まちづくりに住民として参加する。
- コンベンションに参加し、町田の南部の魅力を広く宣伝・共有するきっかけにする。

まちのにぎわい

- 小布施町などの「まちじゅう図書館」（民家やお店の一角に本棚を設けて、訪れた人が読書・交流できるようにする）はいいと思う。
- 家にある本を持ち寄って、本の魅力を紹介したり、読書会や読み聞かせを催す。
- 家の1階をギャラリースペース、教室や趣味のスペースにする。

交流の場をつくる

- イベント（花見、お盆祭り、マラソン大会など）を企画する。
- 小学校の空き教室（放課後）や空き農地などを活用し、子どもやお年寄りなど、多様な世代が集まり、活動する場所をつくる。
- 空き家を有効活用するなどして、若い人と高齢者が交流する場所をつくる。
- 「何かしようチーム」。公園などで、常に誰かがいて何かをやっている、自由参加の場所をつくる。

子育て・安心安全づくり

- 公園や学校で大人が子どもに教える。鶴間公園で冒険遊び場を運営する。
- 子ども達の見守り・預かりに関わる。中高生の居場所づくりをして、大人が見守る。
- まちを明るく、治安を良くすることに関わる。

みどり

- 鶴間公園についての物語を大切にしたい。手付かずの豊かな自然を大切にしたい。
- 鶴間公園の管理にボランティアとして関わる。
- 無農薬野菜、はちみつづくりなどをする。

■第3回 今和泉 隆行 氏

「多様な人々の日常を創造する～南町田を立体的に見る～」

講師プロフィール

空想地図作家。7歳から実在しない都市の地図「空想地図」やバスの路線図を描き始め、今も描き続けている。埼玉大学経済学部卒、現在は都市や地域情報、地図に関する講演、ワークショップ、記事執筆を行っている。NHK教育番組やドラマで使われる架空の舞台の地図製作を行っている。



空想地図作家という聞きなれない肩書きを名乗る今和泉氏。そもそも空想地図とは何か、という疑問が参加者一同に生じました。通称「地理人」と呼ばれる彼が、幼い頃から描いてきた空想の地図。今和泉氏が作る空想地図は、自己の世界観から理想都市を描くのではなく、様々な人が息づく現実的な都市をシミュレーションすることで、まちの成り立ちを紐解くものです。



南町田と類似しているまちの事例を比較しながら、地図から“現実的なまちの様子”を読み解く方法についてレクチャーしていただきました。

レクチャーのポイント

地図を読み解く視点

①交通利便性 ②商業環境 ③みどり ④住環境 から考える。

南町田と類似したまちの地図を、上記の観点から比較し、まちの構造の違いや土地のストーリー（歴史）を今和泉氏に読み解いていただきました。

駅・公園・商業が集積する南町田を、類似する南大沢・印西牧の原・新鎌ヶ谷などの地図と比較することで、まちの構造・まちの発展の仕方の違いが見えてきました。まちの比較をすることによって、改めて見えてきた南町田の特徴をもとに、今後の南町田の姿を想像しながら、“後世に引き継いでいきたいと思うまちの姿”について考える時間となりました。

「他のまちと比較したときの、南町田の特徴とは？」

地図の比較により見えてくる南町田の特徴を、メンバーが5～6人の6グループに分かれて話し合いました。

| 比較したまち | 見えてくる南町田の主な特徴 |
|------------------|---|
| 成瀬 | 南町田は渋谷や大手町と直結していて、交通利便性がよい。一方で、市民センター・図書館、スーパー・銀行など、日常生活を便利にするための施設が、成瀬には駅前に集積しているが、南町田にはあまりない。 |
| 玉川学園 | 玉川学園は谷戸地形でまちの規模が小さめだが、南町田には地形的な広がりが見られる。 |
| 町田駅周辺 (中心市街地) | 南町田は鉄道だけでなく、2本の国道が近接している。町田駅周辺は商業施設のバラエティが多いが、南町田は駅近に大型のショッピングモールがあり、ごちゃごちゃしてなくて良い。 |
| 海老名 | 地形が平らなので徒歩圏が広く、また国道が近いので車でも移動しやすい。道路でまちが分断されているので、子ども達が移動しにくい。 |
| 橋本・新百合ヶ丘・長津田 | 橋本・新百合ヶ丘・長津田の街並みと比べて、南町田はみどり豊かで、低層の建物が多いので広がりを感じる。お茶や食事ができるお店は少ない。 |
| 埼玉県越谷 | 越谷には下町らしい人情的な雰囲気があるが、南町田は都会的な印象がある。 |

「後世に引き継ぎたい、南町田の姿とは？」

まちの比較から見える南町田の特徴や、今後の南町田を想像するなかで、“後世に引き継いでいきたいと思うまちの姿”について、話し合いました。

南町田で後世に引き継いでいきたいもの

- ・暮らしやすいまち：世代交代ができる子育てしやすい住宅地。
- ・みどり豊かな環境：鶴間公園。人と自然が仲良くできる良さ。子どもの遊び場。公園を主役にしたまちづくり。
- ・交流できる空間や機会：いろんな世代が集まって、つながりが持てる場所（公園、図書館、カフェ、スポーツ施設など）。勝手に集まれる場所。
- ・歴史を刻んだもの：40年経った豊かな自然。一里塚、大山街道など。駅北口の楠の大木。
- ・多様な機能をもつまち：自然エネルギーの活用。自転車走行環境。災害に強いまち。

■第4回 田中 可久 氏

「何をするにもお金がいる！～官民連携におけるファイナンスとは～」

講師プロフィール

三井住友トラスト基礎研究所 副主任研究員。インフラや公的不動産を投資対象とする市場におけるリサーチやコンサルティングに従事。直近では、公的部門の施設保有等に関するデータベース作成業務等を担当。証券アナリスト検定会員。寄稿に不動産経済ファンドレビュー、「究極のオペレーショナル・アセット～日本のインフラ投資市場の“シンカ”」がある。



田中氏の講義では、前半は公共施設にかかるお金について、後半に官民連携の手法について、レクチャーしていただきました。

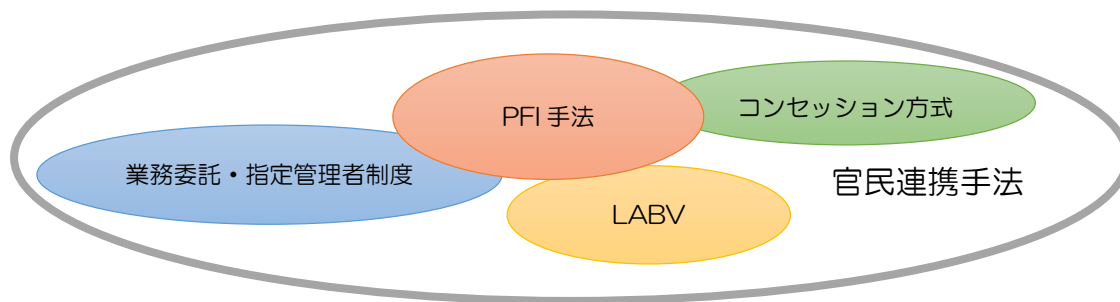
次の①～⑤のエリアにおける「公共施設の維持管理・更新費」について、過去と将来予測について、レクチャーしていただきました。



ファイナンス（財政）の視点から見た公共施設の今とこれから

| | |
|------------|---|
| ①全国 | 「公共施設の維持管理・更新費」は今後増加の傾向であり、15年後の2030年にはその費用は現在の約2倍に達すると予想される。 |
| ②三大都市圏・地方圏 | 町田市を含む三大都市圏と地方圏での「公共施設の維持管理・更新費」の予想を比較すると、地方圏の方が増加傾向は顕著になる。また、地方圏は人口減少等の社会構造の大きな変化に伴う負担が増加する。 |
| ③都道府県・市町村 | 「公共施設の維持管理・更新費」の増加額については、国、都道府県、市町村の順に大きくなる傾向にある。「公共施設の維持管理・更新費」は、都道府県では2040年過ぎにピークに達するのに比べ、市町村では少し早い段階の2035年頃にピークに達すると予想される。 |
| ④町田市 | 人口構成や今後の人口推移、財政状況から見て決して弱い人口・経済基盤ではないが、将来的な財政状況の変化には注意が必要となる。特に公共施設の大規模改修などには十分な配慮が必要となることが予想される。 |
| ⑤千葉市 | 町田市と同様の課題があり、今後30年間の更新費用の増加が予想される。 |

これからの厳しい財政状況の中、民間のノウハウ・資金を活かし、低コストで高いクオリティの公共施設の建設、維持管理、運営等を行うことがポイントとなります。ここで重要となる、「官民連携手法」について、各手法の説明や導入方法についてまで、具体的な国内外の事例紹介を含めてレクチャーしていただきました。行政と民間がどのように関わっていくことが、将来、負担の少ないまちづくりにつながっていくのかについて学びました。



| 官民連携の手法について | |
|--------------|--|
| 業務委託・指定管理者制度 | 施設所有や資金調達など、大半の責任・リスクを国・自治体が負担。維持管理や運営の一部を委託するケースが多い。 |
| PFI手法 | PFI法に基づいて運営する。施設所有から資金調達などで、様々な責任・リスク分担の類型が存在。 |
| コンセッション方式 | 公共施設等の運営権を設定し、所有は公共だが、運営にかかる権利全般を民間に譲渡する手法。 |
| LABV | 行政が現物（土地など）、民間は現金を出資する共同出資の事業手法。自由度が高く複数のプロジェクト（施設）を包括的に運営する事例が多い。 |

レクチャーのポイント

- ★施設所有権を官民どちらが有するのか
- ★資金調達の主体を官民どちらにするのか
(出資・融資元の協力体制や調達コストを含めて実効性はあるか等)
- ★行政関与度合い（民へのリスク移転）をどのレベルに設定するのか
(民間のノウハウが十分に発揮できるか等)

公共施設整備について最適な官民連携の手法を検討する際は、対象施設や事業ごとの特性に応じた上で、上記の要素を多角的に整理する必要があることを学びました。

3. 最終回（第5回）における成果発表ワークショップ

■ファシリテーター 山田 小百合 氏

南町田を舞台に「あなたが」取り組むオリジナルプロジェクトを考えよう

ファシリテータープロフィール

NPO 法人 Collable 代表。学生時代に、インクルーシブデザインや学習環境デザインの切り口から、障がいのあるなしに関わらないワークショップに関する実践研究を行う。その後、障がい者や高齢者、マイノリティ等、誰もが包摂される学びの環境づくりを実践するべく NPO 法人 Collable を設立し、代表理事を務める。ワークショップや調査・開発をしながら、大人から子どもまで多様性を活かした学びと創造の場をデザインしている。京都造形芸術大学通信教育部非常勤講師。



最終回となる第5回は、第1回から第4回までのレクチャーの内容をもとに、ファシリテーターに山田氏をお招きして、4~5人の6グループでのワークショップを実施し、以下の3つのワークを行いました。下記の2025年を形づくる5つの要因、町田市が現在直面している課題を参考にしました。



❖考えるワーク①❖

これまでのレクチャーを振り返る

❖考えるワーク②❖

南町田駅周辺の2030年の具体的な未来シナリオを想像する

❖つくるワーク❖

自分で明日からできる南町田駅周辺の魅力化プロジェクト

<2025年を形づくる5つの要因> (リンダ・グラットン氏の予言)

- 要因1：テクノロジーの進化
- 要因2：グローバル化の進展
- 要因3：人口構成の変化と長寿化
- 要因4：社会の変化
- 要因5：エネルギー・環境問題の深刻化

<町田市が現在直面している課題>

- ① 進行する高齢化
- ② 人口構成の急変
- ③ 大幅に減少する転入者
- ④ 強みだった商業のかげり
- ⑤ 財政破綻のおそれ
- ⑥ 公共施設の維持困難
- ⑦ 最寄の駅まで15分以内の市民が半数
- ⑧ 就業人口減少のおそれ
- ⑨ 地域活動において、意識は高くも不参加傾向
- ⑩ 量が多いが満足度が低い緑

❖考えるワーク①：これまでのレクチャーを振り返る❖

これまでのレクチャーで各講師から指摘のあった課題認識、メンバー間で意見交換した内容、大事だと思ったことなどを、グループごとに思い出しながら共有し、振り返りました。

【第1回】 8月22日 講師：杉山芙沙子氏 “南町田を自分と重ねて考える”

- 教育の重要性を再認識した
- いつもとは違う視点で見る
- 弱みと強みは表裏一体であり、弱みを活かすこともできる
- 自分のまちを良く知ることが重要
- 健康
- エンタメ
- コミュニケーション
- 南町田の強みは、アクセスの良さ、鶴間公園のみどり（駅近くの緑ゆたかな癒しの空間）、コミュニティのつながりがある、高い建物がなくて景色が良い

【第2回】 9月19日 講師：花井裕一郎氏 “南町田で自分が出来ることを考える”

- まちのストーリーを大事にする
- 「住民が主体」となる
- 自分がなにを出来るのか
- 既成概念を取っ払い、発想の転換をはかる
- 「居心地のいい場所」「あいまいな場所」「デザインコードを考えた場所」に人は集まる
- 自宅を人の居場所として、まちに開放
- みんなでつくる公共空間（つくる前に何を残すのか？）
- 共創力と多様性
- いきいきしたまちづくり
- 講師が関わった具体的な成功例は、町田でも参考にしたい

【第3回】 10月18日 講師：今和泉隆行氏 “南町田を地図で比較する”

- 客観的にまちを見れる面白さ
- 地図を創造する
- バス路線の重要性を再認識した
- 他のまちと比較する
- 理想だけでなく現実を見ることが重要
- 比較することで自分のまちの良さに気付く
- 南町田と他のまちの比較
 - ⇒大きな公園、大きな商業施設がある、商業施設がグランベリーモール以外に少ない、交通の利便性が良いが道路でまちが分断されている、公共施設が少ない、個性がない
- 南町田で後世に残していきたいもの
 - ⇒みどりあふれる鶴間公園、公園を主役にしたまちづくり、子育てしやすいまちづくり、人とつながりをもてる場所、公共施設、住宅と商店街がどう調和するか

【第4回】 11月8日 講師：田中可久氏 “南町田の「官民連携」を考える”

- これからの財務再生は官民連携が必須だろう
- 公共施設の維持、更新で必要になる金額が多いことがわかった
- 官民連携に適する事業、適さない事業がある（図書館法、公園法、公民館法のある意味とは）
- 官民連携に市民が関わるのが鍵
- 手法の選択をどのように誰が行うのが鍵
- 業務委託、指定管理者制度、PFI、LABV、コンセッション方式

「考えるワーク②」では、2030年の南町田の姿を想像しました。これを踏まえ「つくるワーク」では、“自分が”明日から取り組むことができるような“南町田の魅力化プロジェクト”を、「Lab・未来創造 in 南町田」の成果として発表しました。

グループ名：

今日行く（教育）所と今日用事（教養）をつくる会（病院以外で）

（※言葉遊びです※）

2030年を想像する際、「お金がない前提」からスタートするのではなく、例えば、現状、税金に対し6割を占めるともいわれる膨大な医療費を、少しでも減らしていくために、「今、何か出来ることはないか考えよう」というのが会の名前の由来です。毎朝のあちこちの病院の混雑状況を見るにつけ、一人ひとりの行く所と用事が病院だけ…というのはあまりに寂しいので、「病院以外でワクワクするところに行こう！」「一人ひとりがいきいきと充実した人生をおくれるように」今何か出来ることはないか考えよう、という意味でつけました。

❖考えるワーク②

南町田駅周辺の2030年の具体的な未来予想シナリオを想像する❖

- ◇図書館と公民館機能をもつ施設がある
- ◇道路が整備され、安全安心な通行が確保されている
- ◇商業施設は以前の70~50%だが、近隣住民が利用しやすい飲食店が増えている
- ◇地産地消ができる、地元の店舗が多い ◇人とのつながりが強いまち、交流のあるまち
- ◇高齢者のための住み替え住宅ができる ◇稼いで消費して寝るだけのまち
- ◇子どもの自殺、孤独死が増加する
- ◇派遣、非正規の仕事しかなく低年収でしか働けない若い世代の問題がある
- ◇足腰弱い高齢者にとって、物理的に鶴間公園は遠い

❖つくるワーク：自分で明日からできる南町田駅周辺の魅力化プロジェクト❖

- ◇様々な世代がパワーを発揮できるように人が出会い交流し、新たな活動を生み出せる場所・空間づくり（しゃべり場・井戸端）
 - ◇誰でも参加でき、まちづくりについてじっくり検討をする会をつくる
 - ◇新しいまちづくりでは、テーマパークでなく生きるためのコミュニティづくりを目指す
 - ◇挨拶や声かけの出来るまち
-
- ◇鶴間公園や映画館などの南町田らしさ・独自性を活かした拠点づくり
（市民映画祭など、地産地消の食堂）
 - ◇地元民が主人公となり、地域が主役となる、わくわくするイベントなどを催す
（鶴間公園の自然を活かしたイベント、フリーマーケット）
 - ◇鶴間公園の自然の中で体を動かせる、のびのびできる子育ての環境づくり
-
- ◇起業する人、働く人を支える場をつくる
 - ◇相模原など近隣市を含めた「100万人都市」で考え、縮小する街づくりを考える

グループ名：年の差（65年！）グループ

❖考えるワーク②

南町田駅周辺の2030年の具体的な未来予想シナリオを想像する❖

- ◇国道16号、国道246号が完成する
- ◇バスでのアクセスがしやすくなっている
- ◇高齢化して、高齢者が現在と同じような生活をする
- ◇小中学校の不足
- ◇現在とあまり変わらない
- ◇住民のまとまりが強くなることを望む

❖つくるワーク：自分で明日からできる南町田駅周辺の魅力化プロジェクト❖

- ◇幅広い年代性別、みんなが集まれる開かれた場所が常にある
- ◇そこに集まってケンケンガクガク話ができるまちを考えるプロジェクト
（駅前で・鶴間公園で）
- ◇ひとりひとりが参加した実感が持て、自分のまちとして考えることが大切
- ◇気軽に投書できたり集まれる場所をつくる

【守らなければならないこと】

- ◇鶴間公園などの美しいみどり
- ◇子どもたちが大人目から見えない森で自由に遊ぶ楽しさ、公園の中で子どものちょっとしたいたずらが許される場
- ◇年月を重ねたまち
- ◇高い建物が少ないところ

-
- ◇子どもも大人も安心して暮らせるまち
 - ◇無理のないまち
 - ◇住む人のためのまち

-
- ◇南町田の住民にとって、グランベリーモールは必要か？

グループ名：南町田大好きグループ

❖考えるワーク②

南町田駅周辺の2030年の具体的な未来予想シナリオを想像する❖

- ◇人口減少
- ◇空き家の増加
- ◇高齢者の増加
- ◇商店街が閑散とする
- ◇高齢者に優しい買い物のまち
- ◇子育て世代の増加
- ◇高齢者が積極的にまちづくりに参加している
- ◇充実した商業環境が構築されている
- ◇鶴間公園で子どもたちが元気に遊んでいる
- ◇近所に若い人が少ない
- ◇南町田駅に急行が停車する
- ◇道路はそれほど混雑しない

❖つくるワーク：自分で明日からできる南町田駅周辺の魅力化プロジェクト❖

◇子ども中心の働く女性に優しいまちへ

⇒駅近くでの保育施設の充実、ファミリーサポーターの充実、病児保育施設の完備

◇2大資源である鶴間公園と商業施設を活かしてアピールするまち

⇒手つかずの自然、大きな広場の存在

⇒木立を利用したプレイパーク（冒険遊び場）の創造（これにより、様々なグループが活性化される）

◇今後の成長産業として、ペットを活かした商業施設＋鶴間公園の広場を利用したバックグラウンドの活用（土が必要）

◇水道道路の利用

⇒ドッグラン、スケートボード、そりすべり、ゴム飛行機、凧揚げ、遊び場など

◇高齢者に優しいまちへ

⇒バリアフリー、高齢者向けのカフェ、移動商店街など

グループ名：チーム4

❖考えるワーク②

南町田駅周辺の2030年の具体的な未来予想シナリオを想像する❖

◇グランベリーモール

- ・郊外型SCのある独自のポジションのまち
- ・人口増加、栄えるNo.1 田園都市線
- ・グランベリーモールの集客の増加
- ・住み替え住宅が高層化される
- ・南町田駅の利用者の大幅な増加
- ・利便性が良くなり、車が多くなる

◇駅

- ・北口から高速バスが発着しているだろう
- ・スローステーション（滞在時間の長い住民のための待合室）がある
- ・公園直結型の駅、満足度の高いみどり
- ・田園都市線が二階建て車両になっている（湘南新宿ライン車両のような）

◇公園

- ・鶴間公園内の樹木が大きくなりすぎている
- ・境川ゆっくりロードにマラソンコースがある

❖つくるワーク：自分で明日からできる南町田駅周辺の魅力化プロジェクト❖

◇健康プロジェクト

- ・マラソン ⇒ランニングステーション、公園・ゆっくりロードを含めた信号無しのマラソンコース など
- ・公園遊具 ⇒健康遊具の設置
- ・環境 ⇒みどりが多く、空気の良い、自転車の利用促進（パーク&ライドレンタサイクル）、低層の魅力の継続

◇コミュニケーション活性化プロジェクト

- ・施設 ⇒リエゾンなどを拡張して会議室・集会室を多く設置、起業家育成のためのスモールオフィスや多目的施設として活用
- ・鶴間公園 ⇒もっと南町田の拠り所に、ポケット広場・語り合える場
- ・催し物 ⇒サッカー教室、アーティスト・美大などと連携、ドッグラン（会話のきっかけ）

◇エンターテインメント強化プロジェクト

- ・グランベリーモール内企画
⇒大道芸人がいる、公園の中にあるような施設をつくる

グループ名：次世代へ

❖考えるワーク②

南町田駅周辺の2030年の具体的な未来予想シナリオを想像する❖

- ◇公共交通、電車、バス、歩き、自転車でグランベリーモールと鶴間公園に来る人が増えている
- ◇障がい者、高齢者が自由に移動できる
- ◇電気自動車の活用
- ◇交通利便性の向上
- ◇南町田駅に急行が停車する
- ◇みどりが増えている、空から見たみどりが二倍になっている
- ◇自然が守られ、空気がきれい
- ◇騒音がない
- ◇公共施設（図書館、コミュニティセンター、スポーツ施設）ができています
- ◇市の財政が圧迫される
- ◇人口に対する公園の面積が減少する
- ◇グランベリーモールに個人商店が増えていて、おしゃれで上品になっている
- ◇全年齢層が共存、協力している
- ◇町内会では若い人が活発に活動している
- ◇人口増加、田畑の減少

❖つくるワーク：自分で明日からできる南町田駅周辺の魅力化プロジェクト❖

- ◇グランベリーモール内に地元の店舗が参入できるようにする
⇒土日テントブース

-
- ◇南町田駅周辺の畑を守る。
⇒子どもセンターばあん等との連携

-
- ◇新設道路（市・都道どちらかでも）での大々的な祭りの開催
⇒南町田祭りとコラボ

-
- ◇電気自動車の拡大
⇒充電設備の設置

-
- ◇コミュニティセンターの設置

グループ名：チーム第6感

❖考えるワーク②

南町田駅周辺の2030年の具体的な未来予想シナリオを想像する❖

❖つくるワーク：自分で明日からできる南町田駅周辺の魅力化プロジェクト❖

◇人

- ・明るく、楽しく、元気の良いまち
 - ・ひとりひとりがその能力を十分発揮できるまち
 - ・多世代の人たちが出かけて楽しいまち
-

◇自然

- ・今より住み良い魅力あるまち
 - ・南町田の文化の特徴を出す
 - ・南町田が町田駅、鶴川、橋本と並ぶ中心地である
 - ・公園、史跡、みどりも残され、住民にとっても過ごしやすいまち
 - ・みどりあふれるエリアが残っている
-

◇交通利便性

- ・交通、道路、バス路線も多く、近代的なまち
- ・駅周辺が整備されて落ち着いたまち
- ・東名高速道路、国道16号、国道246号の立体交差事業が完成する
- ・公園内に文化公共施設をつくる

おわりに

「L a b・未来創造 i n南町田」では、メンバーの皆様からは、各回において「南町田の強みと弱み」「まちに対して、自分が出来ること」「他のまちと比較したときの南町田の特徴」「後世に引き継ぎたい、南町田の姿」などについて、様々なご意見をいただけてきました。そして、最終回のワークショップでは、第1回から第4回までのレクチャー内容を存分に活かして、様々なプロジェクトアイデアが生まれました。

10代から80代にわたる幅広い年齢層の方々にご参加いただき、それぞれの日常の生活実感から見た、南町田の魅力や未来の可能性などから形づくられる、まちづくりの着眼点・アイディアなどが湧き出しつづける様は、非常に印象的なものでした。

南町田のまちづくりはまだ始動したばかりです。

長期的な視野からのまちづくりには、たくさんの担い手が必要になります。

「L a b・未来創造 i n南町田」を通じては、「住民が話し合える場・集まれる場をつくりたい」というお声がたくさん挙がりました。

L a bメンバー、そしてこの報告書をご覧になった方々の中から、南町田の将来を魅力的にすることに一人でも多くの方に携わっていただけることを願っています。

L a bメンバーの皆様、3ヶ月間にわたる活動、大変お疲れさまでした。
ご参加いただき、誠にありがとうございました。

L a b・未来創造 i n南町田 事務局

この冊子は、200部作成し、1部あたりの単価は302円です（職員人件費を含みます。）。

【本件に係るお問い合わせ先】

町田市 都市づくり部 都市政策課

TEL 042-724-4248（直通）